

令和7年度 学校評価 総括

浜田市立旭中学校

1 実施について

○調査方法 Microsoft Forms を活用した評価調査

○回答期間

- ・生徒 令和8年1月13日（火）～（各学級で実施）
- ・保護者 令和8年1月13日（火）～1月20日（火）
- ・教職員 令和8年1月13日（火）～1月20日（火）

○分析期間 2月上旬（職員会議等）

○結果公表 3月10日（火） メール配信システムすぐーるで周知し、Web 公開

2 調査結果

○質問内容・・・・・・・・学校経営方針に基づいて作成

○生徒、保護者、教職員の回答結果・・・別紙資料

3 結果分析・考察

○特に配慮や支援のいる生徒が多い学年で、職員研修ができて生徒理解が深まった。また、生徒の様子について、日々職員室で相談や共有ができたことは良かった。ケース会を何度も実施したが、その情報については、メモの回覧や共有フォルダに入れることで、負担の少ないところで共有していくとよい。SC との面談は希望者が多く活用できた、確実に全員面談を行っていく。

○協調学習の市の指定校2年目で、実施教科が増え、教科横断的な実践もあり、生徒の深い学びにつながった。また地域と連携した総合的な学習の時間を中心とする学びについて、生徒・保護者・教職員とも肯定的な回答が高く、3年間積み上げることで、ふるさとに対する愛着や地域貢献意欲につながっている。

○自学 showtime については効果があるのでさらに回数を増やしていくとよい。今年度ブレ課題を実施したが、各教科で課題の出し方を検討していく必要がある。

○予算執行や備品整備について、職員の声を聴いて適切に行った。（理科室スクリーン、各階ホワイトボード、体育備品など）また、やまなみ学級の作業学習や生活単元学習と連携することで、生徒の自己有用感を高め、校内に温かい空間を作ることができた。しかし、職員の休養室や職員室内の配線など、さらなる職場環境の改善が必要である。

○教職員は、生徒一人一人が活躍できる場や機会を作っているつもりだが、生徒や保護者の意識とは少し乖離がある。教育活動後の振り返りや評価について工夫し、生徒の自己肯定感や達成感の醸成に努めたい。

4 学校関係者評価

○第4回学校運営協議会 令和8年1月28日（水）開催

その後、「すぐーる」でもコメントをいただく機会を設定

○ご意見・評価

- ・地域と連携する上で、学校としてのねらいやテーマが少し絞ってあるとまちセンとしても協力がしやすい。
- ・子どもたちの意見も聞いて、まちセンの事業についてもより良いものにしていきたい。
- ・生徒・保護者ともにほぼ肯定的な回答が占める中、どの設問にも一定数の否定的な回答が見られる。全てのニーズに応えることは難しいと思うが、少数意見を拾うことができれば、さらに良い。今後もきめ細やかな対応をお願いしたい。

5 次年度へ向けて

○地域にかかわる学習については良い形ができている。今後、学校運営協議会と情報交換を密にしながら、互いにとって、さらに発展させていきたい。

○ミライシードをさらに活用することで、学習の自立につなげるとともに、保護者の経済的負担軽減や教員の負担軽減を図っていく。

○情報収集・活用能力の育成のため、デジタルシティズンシップ教育や情報リテラシー教育について取り入れる必要がある。

○現在の教育相談は担任の負担が大きくなっているため、時間を確保していく必要がある。

○教務関連のデジタルファイルについて、読み取り専用にするなど運用の改善が必要である。

○部活動地域展開に向けて、市教委とも連携してできることからやっていく必要がある。また3年生の引退時期について、学校全体でルール作りが必要である。

○業務改善のため、各行事や定期テスト、生活時程を見直していく必要があり、今年度中に教職員にアンケートを取って検討を始めていく。また会議等についてもそのやり方等について改善が必要である。

○備品の点検・整備をしてさらなる環境改善をすすめるために、夏季休暇中に作業日を設定する。

○少数であっても否定的な意見を持ち、自己肯定感や自己有用感が低い生徒がいることを踏まえ、生徒指導・支援面及び特別支援教育の視点を生かした授業改善を通して、より魅力的な学校をつくっていく必要がある。そのために、生徒にどんな力をつけさせたいか、学校として保護者により具体的に説明していくことが必要である。